

阿蘇市は「東日本大震災復興支援対策本部」を立ち上げ、復興支援に取り組んでいます。

復興支援対策本部の設置

4月1日に市役所内に「阿蘇市東日本大震災復興支援対策本部」を設置しました。

当本部には復興支援班として、専任の職員2名を配置し、被災者の支援や被災地の復興支援のための業務（住宅確保から生活支援まで）を一元的に管理し対応にあたります。

また、要支援者に関する情報収集や調整、避難所、被災地への職員の派遣等も積極的に行います。



(対策本部 ☎ 22・3510)

市の取り組み

復興支援に係る費用について、総額4千5百万円程度を予算化し、次の取り組みを行っています。

①被災県への見舞金の送付

東北3県へ3千万円

早期復興のためには先ず社会基盤の再構築が喫緊の課題であり、ライフラインの整備が先決となります。このため阿蘇市としては、被災者の方々に配分される義援金としてではなく、第一線で復興の指揮を行う自治体への直接的な支援が必要であると考え、被害の大きかった東北3県（岩手県、宮城県、福島県）に各県1千万円、合計3千万円を見舞金として贈り、被災者の方々の生活再建に欠かすことのできない仮設住宅、道路・橋、上下水道等の建設、がれき処理に役立てていただくこととしました。

②被災地への職員派遣

総勢40名を派遣予定

熊本県支援チームの一員として、第4陣（4月16日出発）以降、熊本県との調整により増減はありますが、各陣5名（総勢40名）の職員を宮城県東松島市に派遣する



▲市長から任務の激励を受け4月16日宮城県東松島市へ出発した阿蘇市第1班の加藤勇二郎防災交通係長（写真左）と、18日福島県いわき市へ出発した社会福祉協議会（教育課勤務）の村上潤一主任。

体制を整えました。

派遣される職員は、被災自治体の行政復興支援（罹災証明発行業務、仮設住宅入居受付業務、支援物資対応業務）に従事します。

また、県社協派遣チームの一員として1名を福島県いわき市に派遣し、災害救援ボランティアセンターの運営支援に従事しました。今後は被災された方々の健康管理心身のケアに従事する保健師2名も別途派遣します。

③被災者の受け入れ態勢

100名程度の受け入れを目標

現在、市営住宅等を7戸準備するとともに、100名程度の受け入れが可能な公共施設を確保し、受け入れ態勢を整えています。また、受け入れ後は、避難者への適切な生活支援や就労支援、心身のケアが必要となることからその体制づくりを進めています。

また、阿蘇中央病院では、患者受入れベッドの確保も併せて行っ

ています。
親類縁者を頼っての避難も予想されることから、市民の皆様方の情報の提供をお願いします。

市民からのご支援について

震災発生以来、阿蘇市の皆様から温かいご支援をいただきありがとうございます。特に義援金につきましては、各行政区をはじめ企業・団体・個人から温かい寄付をいただき誠にありがとうございました。

① 支援物資の受け付け

必要な物資が必ず必要な人に確実に届くように熊本県と連携して、4月6日まで衣類関係（特に新品の下着、靴下等）の受け付けを行いました。市民の方々から下着



▲県を通じ被災地へ送られる支援物資

類1, 503着、靴下1, 546足、上着・ズボン・スカート類115点、その他214点のご提供をいただき、熊本県を通じ被災地へ送付しました。今後は必要に応じて支援物資の受け付けを行いますので、その際にはご協力をよろしくお願いいたします。

② 義援金の受け付け

震災発生以来、公共施設48カ所に義援金箱を設置するとともに、社会福祉協議会を通じ各行政区の皆様にもご協力をお願いしました。

3月末現在の義援金総額
10,852,635円

(義援金箱2,958,614円、各行政区等7,894,021円)

寄せられました義援金は「阿蘇市民一同」からの義援金として熊本善意銀行を通じて被災地に届けられ、今後、被災者に配分されることとなります。

なお、義援金は引き続き受け付けていますので、重ねてご協力をお願い申し上げます。

阿蘇市消防団辞令交付式 新体制決まる

【平成23年度 消防団幹部名簿】

職名	氏名
団長	古澤志喜男
副団長	室 恒和*
副団長	木村裕次郎*
副団長	高宮 隆博
第1分団長	宿利 直也
第2分団長	伊藤 昭生*
第3分団長	高木 洋
第4分団長	藤岡 周治
第5分団長	原 元三
第6分団長	榎木野政一*
第7分団長	高日 久光*
第8分団長	橋本 賢也*
第9分団長	甲斐 桂史
第10分団長	村上 大介*
第11分団長	山内 利公*
第12分団長	家入 勇人

*は新任



▲宣誓書を読み上げる斉藤さん。

阿蘇市消防団辞令交付式が4月1日、市役所で行われ、昇任者や新入団員に辞令が交付されました。式では、新入団員を代表して斉藤孝幸さん（西仲町）が「何人も恐れず、良心に従って消防の義務を遂行することを誓います」と宣誓書を読み上げました。

今年度は12分団、総団員数は790人の体制で取り組ま